

火災危険性を有するおそれのある物質に関する調査検討会（平成 27 年度第 3 回）  
議事要旨

1 開催日時

平成 28 年 3 月 8 日（火）14 時 00 分から 16 時 00 分まで

2 開催場所

中央合同庁舎 7 号館（金融庁）9 階共用会議室（904）

3 出席者

（1）委員（敬省略、順不同）

田村 昌三（座長）、朝倉 浩一、新井 充、岩田 雄策、芝田 育也  
鶴田 俊、三宅 淳巳、八木 伊知郎

（2）オブザーバー

欠席

（3）事務局

白石 暢彦、鈴木 健志、清水 崇一、神山 雄太

4 配布資料

（資料Ⅲ－1）第 2 回調査検討会議事要旨

（資料Ⅲ－2）火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査報告書（案）

（資料Ⅲ－3）マグネシウムに関する安全対策マニュアル（案）

〔参考資料Ⅲ－1〕委員等名簿

〔参考資料Ⅲ－2〕開催要綱

〔参考資料Ⅲ－3〕金属火災において水消火を行うことの危険性に関する実大実験概要及び結果

〔参考資料Ⅲ－4〕マグネシウム切削加工マニュアル（日本マグネシウム協会）

5 議事内容

（1）第 2 回検討会の議事要旨について

○事務局より資料Ⅲ－1 をもとに第 2 回検討会の議事の確認を行った。

（2）「火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査報告書（案）」（火災危険性を有するおそれのある物質及び消防活動阻害性を有するおそれのある物質）について

○事務局より資料Ⅲ－2 をもとに説明を行った。

【委員】消防活動阻害性を有するおそれのある物質で、入手困難とされた物質については、今後どのような対応を考えているのか。

【事務局】来年度は、毒劇物取締法を所管する厚生労働省に、毒劇物に詳しい業者を紹介いただき、入手・分析業務が行えるようにしたいと考えている。

【委員】当該物質の流通量はどれくらいか。

【事務局】厚生労働省によると、100 t以上の流通量であることが確認できている。

(3) 「火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査報告書(案)」(マグネシウム火災に対する調査検討)の対応について

○事務局より資料Ⅲ-2及び資料Ⅲ-3をもとに説明を行った。

【委員】資料Ⅲ-3の初期消火の対応について、小規模な容器内(実験室レベル)での火災については蓋をすれば消火できると考える。

【事務局】マニュアルへの記載について検討する。

【委員】資料Ⅲ-3で、安全な金属製容器とあるが、どのようなものを記載すべきである。

【委員】消防の視点から、火災延焼防止という意味で安全な金属製容器とした。一方で、取扱い現場では、必ず金属製の容器で保管しているわけではないので、関係協会と話し合い、表現を検討したい。

【委員】資料Ⅲ-2で、試料残存率が、噴霧注水時に比べて、直状注水時の方が少ないがなぜか。

【事務局】直状注水により内部まで入った水が、水蒸気として上昇し、試料全体と反応を起こしたため、全体的に燃焼したと考える。

【委員】資料Ⅲ-2で、噴霧注水時は照度が高くなっている。このことから、注水時に激しく光るようであれば、注水をやめることも考えられる。

【事務局】文献にも同様な記載があることから、マニュアル作成の参考にしたい。

【委員】今後、工業的に多くのマグネシウムと金属を使用することが考えられる。それぞれの切り屑の混合はとても危険であるので、注意を促していただきたい。また、併せて、混合された金属の保管方法等も周知していただきたい。

【事務局】検討する。

【委員】資料Ⅲ-3の安全対策マニュアルは誰向けのものなのか。

【事務局】事業者及び消防機関を想定している。

【委員】初期消火に失敗した時の避難等についても、記載すべきである。

【事務局】その観点については抜けていたので、検討したい。

【委員】湿った乾燥砂の影響や、乾燥砂をかける高さについても考慮していただきたい。

【事務局】検討する。

【委員】マグネシウム以外の他の金属については、同様の実験を行うのか。また、安全対策マニュアルはいつ頃示すのか。

【事務局】周期表から、類似の金属の中でマグネシウムの活性が高いことがわかる。また、簡易的な実験で、熱水との反応性を確認したが、反応性については、マグネシウムの反応性と同等以下であったことから、一つの基準になると考える。

安全対策マニュアルは、平成 28 年 3 月中を目処に公表する予定である。

(5) その他

【座長】平成 28 年度第 1 回検討会の開催日については、5 月 25 日（水）14 時から開催予定とする。

以上